



872
14
5

明治九年六月寫之
 賊禁秘談卷之壹貳

~ 13
4012
1



門 13
號 4012
卷 1

賊禁秘談卷之目録

- 一 心川丸壺の法辭退く事
- 一 源之位頼政所の事
- 一 源之位頼政禁裏と化名と相事
- 一 源之位頼政所の事
- 一 心川文吾百地の事と成る事
- 一 源之位頼政所の事
- 一 心川謀りて春堂久平と殺事
- 一 源之位頼政所の事



44 2854

賊禁秘談卷之目録



石川丸壺の法辭退く事
 源之位頼政所の事
 人王七代堀河院の御所より内侍の夜に怪異
 の事將所の陸奥守源の義家朝臣の法を以て
 能くする其後平の代堀河院の御所より平
 三年四月知り化名取立て内裏乃至を以て
 帝ありしより海に下り守護乃軍を夜相詰

昭和四年七月廿日寄
斎藤六氏贈

徳寺諸社、此を言傷貴信とらつての龍河新
禱ありといふ事、其常なき所、御法に詮受ありて
山内、自ら思ふ事と撰りて、又と以て然らるる事
評奏り、其に北面、武士に石川を賜、赤門依散
兵衛常法を藤將監持を、安藤武士、友宗是ホ
志、武造り、因て、龍中石川、又兵衛、赤人、重、
龍、と、一、流、の、大、臣、の、源、と、り、法、の、新、と、信、一、
系、の、武、士、の、門、中、と、なる、其、子、を、れ、と、赤、門、の、
と、

元評、此の事、石川と、徳上、と、右、と、れ、右、大、臣、
は、一、君、と、り、立、出、の、心、也、ある、其、才、も、
乃、譽、是、わ、れ、り、今、度、取、り、新、の、化、也、
と、他、身、を、り、法、乃、譽、是、ひ、き、ぬ、
先、中、と、り、と、作、身、と、れ、ば、石、川、は、つ、と、
作、是、と、思、れ、な、り、
弓、箭、未、獲、り、
此、の、家、乃、か、ま、ん、と、相、成、中、
先、中、と、り、

言上ある諸公を少く其家成ともつて勅命
ある所より多し禱退かく別ご家人の如しと言ふ
事主の御心を又秀重に天下に命とて下す
具子なれどひきめ馬法にて及ばしは常の如き
取て減とも退治とて一命をなげ御帰命金
事なるに事なるに何ぞ家人の如しと申上勅命
とありありに大長とつて不利のらるしと諸公同
ゆるはるは御大旨の如しあるは秀門室名に如し
つとあるしと今主上御帰命に渡せしに御帰
聖とて退治とて御月とてと秀門あり別石川を檢北使の
手より渡されし西の職と右より建部と退治せし
石川あり新られば申し西の再の御没勤
つとありの有利に在来し武士の内より家を探し
御入りと御良のりて少御を信而平家の如しなり
信盛とて大忌屋ありなれば是より御月とて
言ふすは秀門御信賴の御退ひしにれば十野

身義朝ハ八幡太帛義家ヲ誦シテ徳ヲ採梁トイフトシ
先程所詔ノ芳洵トイフヲ願フ古例ナレバ義朝源平
ノ威勢ヲ年トイフト長申スルハ何事ト云京言ハ
禁庭ノ首尾ヲ採ラレシ各々取成トイフテ義朝
オモシク下リ清盛トイフト空トイフト何トイフ元保トイフアリ
志トイフ一變トイフアリ片指大臣物トイフ以トイフ更トイフあつて物トイフり
義朝清盛トイフト見トイフル名家トイフナレバ其志トイフをトイフ他トイフト
トトイフ先程トイフ乃トイフトトイフ武トイフ名トイフト何トイフ以トイフ若トイフ仕換トイフす

時ハ其父トイフの世名トイフト久トイフハ上トイフ禁庭トイフ乃トイフ所トイフ躬トイフ存トイフ
天子トイフ乃トイフ所トイフ威勢トイフトトイフ何トイフハトイフ此トイフハ兵トイフ源トイフ氏トイフ頼
政トイフ源トイフの頼光トイフ未トイフ源トイフ乃トイフ義トイフの道トイフをトイフ其トイフ上トイフ被トイフ道
トトイフ心トイフトトイフ何トイフ禁庭トイフ身トイフ護トイフト時トイフト

人志トイフトトイフ大月トイフ山トイフ農トイフ也トイフ海トイフトトイフ志トイフ
あトイフくトイフれトイフてトイフくトイフのトイフ月トイフとトイフ云トイフト

と御トイフトトイフ近代トイフのトイフ義トイフ家トイフ放トイフおトイフくトイフやトイフトトイフ男トイフ武トイフ家トイフ
未トイフ源トイフ乃トイフ義トイフ家トイフ乃トイフ先トイフ程トイフ頼トイフ光トイフ乃トイフ

養由の娘水花の女に當る中、傳へたる雷之佛乃
弓箭兵被り彼の女と不相する。日少及びその
弓矢の威徳とてつとく怪名返信者なり。と作あれを
諸の一同とむと一變ありて兵庫改て古史ある時得宜
御侍の道は義利徳意亦不そと片す。その侍居
とる所引致て頼政と探りそのとひ我ら兵庫改
何のやんしと案内する。大内記の友人執事依く
片治大臣等正有け度林徳徳の化名返信乃候其
方一法作身乃るありと志んことと休先年と有り
あれは兵庫改はつと鷹惟子をわらむなり初命
最奉身よりなるなり頼政世のりつるなりは
初敵と相成は化名の身新とあり打て返信世
御信平愈と作さむとこのなまは徳之守護の
武士小西よとの近藤くのと武造と名に信也之
のたごほくをなむと云符退はし初り宵
くの止二角とらばよとこの何更なりと今是人

思ふをまらむ形政も引添初め意下いふ之と意大
く申ある所取の大臣等一神所なる中条信
吉ら武途の輩申護なす其中に其言急み
て命一武途も多く引く情らありて先程の
射藝の必要ありきを以て退治せし余人を射藝及
狩する事ありしと述べて作あれば形政を重く
はつと願ふ所之を保初命を以て裁一神夫
等も侍り情書を當時に之一玉射とありて申す

沙傳を中として退きある殿之へ在居る公令を
知諸士も西よあると云々時預政官の教極等やと
感心せぬものもあがり新ら形政家敵りあり
良書をいつめて初し通中守せあるは何事もある
より正徳士多き其申てわやの標も無ひのふ
所家乃のふも此は先程乃光是よりとすと能ある
度よ初し形政体俗して身と清め肌よ白く袖
忌一落金の腹巻白檀玉わきの小手臍堂上よ宗

とすの不精をひ色を移衣の病を能くして肩を裁
鳥帷子より白後の新まき長く保下金銀の太
代ははね形形光より作りし雷上働のり水破
兵破の先をおくうやいふも押載位をえて今日禁
庭より裁し初令の全く頼政を徳より下す定形の
武徳より氣の買かよ徳大役を象の神言意
護方と化名と遊佐のこゝめめとら矢を取く
押載良子小徳の早大忠徳流渡也下七流口競三
人乃房亮をえふよ何まも腹巻の中腰膏より
とらこの侍鳥惟子とえし一たより下七たより
競後、相一、徳の早大其外流代の家来武
人こびやわたりかま前後をわらう内裏とて一々
急とある。

源之位頼政林徳裏よりと化名と対ひ

附此初評願依一書

順仁年二年四月廿七の夜今宵頼政林徳裏

守護一松多と退治の初を待とつて安んぶ公
の殿上人の中及びも諸士と西の岸を考人の別と正
志堂と堂下より居たりひ女院の才を今宵の
祭と待たふ能く兵陣に頼政武門より来り
家来の武士所門前より二人の良言所門内述
おど其財陳の存より身伴のり久とるあはさみぬ
皮の上にならある柳想四骨相天晴と未を見ふある
院と其夜も星満とる赤と奈の森とる悪雲一村

系下殿農上りて志とるふ場あるこゑをぬきし細
とりの帝其の場を待たりとるひとくあひまひと
わらふ所治大臣大座よりまじり候唯今成と信
り頼政法つまじり矢と追は雲中を伺ひとれ
は鼓聲有て形を見とるれも時と火火のここと光を放つ
頼政より折りぬく南無八徳大菩薩武と社を護の
口と流しぬくと軍より折るて悪雲を急度と後
せば聲伝ともひとる一と西雲舞下り光と目あふ

わいせわの腕をくめて矢聲を我法ワルナトをさるべし
とある常下りしる悪雲はつ散チらねを急キす法殿の
家根をまろびるる良言徳の軍太忠徳雲るの
如子と服をほろす白服付ていなりし不矢をぬて前
の所を弓と小押コシ太刀短コト母核ノももをす柄ツぶ
しと通せとこの述ツとあれはげ化を弱ヨる氣を
成ナるく尾首を動ウし死せされは猶も押シく想身を
九クり利ある所流化の業ウとのとすりしらす死て

あり臺上臺下マ射シりしとかしする聲志ばし
鳴りも志つりし湯ユ心廉スし北帳キもさるる渡所ワ恨
年ネ金キたつとせのくも一同ト万策を唱ナ頼政ニを為敵エ
感カるざりなまうある北使の友人松崎マと彼カの化名を
見せば大さるる大余トてたろの相虎トぬのトとく死シ
猿マめり先す蛇ノめり四シ長ク何レて虎ノめり鳴聲ニ頼ニ也ニ
ともあつくごトなれ化名ニなればうトちト再ニ橋ノく
死カ骸ニを渡川ニ流シし於テ陰陽ノめ改メを百トてトなニをシけれ

はあふ内と清む先陣時の言會行れ頼政も正五位
乃上ととり其之御王といふ沙由とすしめるとは清
大臣位あるは頼政も今智の御格多と云ふも射る
先といふ沙由平愈乃あし殿威儀すす心位とて
清の處なり清と大内の身護をたすは相御事と有
あれば兵庫瓦階下よひれ伏すも實初を成初令
化名を遺治はるに全頼政も子柄行り何れ君の厚
福よ做とすし悲悦と極と待退のまは清治大臣あ
わく清治御家の實とはれと宮ふ内は清殿の上の時
なき波あれば清治大臣あはくす

時鳥名とも雲井行揚るか南

と云我の御と清も頼政たの勝をつさたの徳を
清御揮裁あるもや月とすしめるとは清

弓張月の射るなりなあせ

と返奇と付たり

時鳥名とも雲井行揚るか

清治大臣

弓張月の射るなりよくせ

頼政

と遺漢して名放としてある帝と初先年法仁
同なり武藝とひ奇道といひ天晴の武士かたを感心
なす是より頼政の名をよみ寄古今の名をとり
なりし時友女高蒲と頼政よなりといふなりあ
るなひる高蒲といふ後なり頼政事なりと下
さの事女と権原之節系成是といふなり
其物及隠れなり頼政是とすなりめ志同なり
下せし事女六七人とい新よと名れ権系と下せ
何れか高蒲なるそ名とさしは流しといふ
権系系成と父平三見源大回なり奇人なり
なりなり

八月向なり法蓮のまこと志やのまあり

いつれなり先と引とさうなり

と係しあるは頼政は津う高蒲と事なり
流し下さるなり頼政武將といひ大和なる

所用と動しりるれば女と心通と事し
なりこれば相改り化多と速信しり未代
速の志と取しり川流の志と家のかきし
と中と弓取の勇と矢心伊賀國行し志
之者りて其所小勢せ居しと事し

賊棟秘談卷之壹終り

賊棟秘談談卷之貳

石川文吾百地りし事と成る事

附り妾武部石川右衛門と事

おるよ石川右衛門と速初め外り依道故

物身初生くそ^{ナカ}いむと^{タスム}おなくある處何れ伊賀

し國下り住居しあるは流石大母小面と上居

たりし事なれば新め若きいとありと事なれ

石川殿と稱しある由よて自然と彼が修

ある所を石川村とよぶ夫りて子孫に村を居
る令士の如し成て智あるはるる小見衆とて
又下の豊長吉公の所治せそ藤堂和泉身高
虎伊賀玉洋順して大舟成りて海客の家
来と抱一節目有者小見小姓の如し成りて
石川の子孫に大吏一子文吾十文大別りて
口絶く同の肉するごとく利口衆的なふひなく定程
の家名とも訂起す言とのなると取沙汰し
父の良大吏を年老手成りてとる母のちる不
使とて青ある也一言既承修りて人を
人ともあはれぬ生吏一目のひおとすしせぬ所い
武士となすは思きも形れんと思ひは家老菟堂
新七郎の使り先程とりて侍友と顔あるれば
形をうせ活して文吾和泉身殿の思小姓の如し
所側にお節の危角短意にて傍事と口端を
口めせ人としてちやく士六之五所て青とて

武家の所長を不存不勤なり也一断七帝割止^{ヤイシ}
こと^ニ其若て改先す程なく^ニ首尾と成て^レ師^ノ跡^ヲ
あれは^レ衣川村^ノ海^ノ又^ニ是^ヲ苦^シと^シ老^ニ病^ノあり
は^レ其^ノ年^ニ其^ノ身^ヲあ^リま^シり^テ独^ニ身^ト成^リて^レ所^ヲ
は^レ其^ノ家^ヲ終^ルく^ニ其^ノ頃^ニ百^ニ也^ト云^ハ夫^ト云^ハ今^ニ
あ^リ彼^ハ元^來伊^賀浪^人と^シ武^術と^割ち^テ冬^ニ
其^ノ備^ハ好^シと^シり^テ所^ノ用^ヲた^シる^ニ東^ニは^多く^シる^ニ
折^石院^ノ大^師云^ハ極^ニ十^ニ種^ノ音^ノ大^師存^テ相^順あ
利^ハ一^ハ系^ノ奴^ト云^ハ名^ノ音^ノ成^リて^レ終^リ夫^ト一^ハあれ^バ大^師云
殿^ニ書^信を^送る^ニあ^リは^レ詮^テ夫^ヲ有^ス也^ト云^ハ凡^ク一^ハ大^師
と^シお^入り^テ東^ニ赴^ク運^ルの^用た^シる^ニ系^ノ之^ヲ得^ル機
揮^テ願^ヒて^レ右^ノ所^ノ休^ムと^シり^テ其^ノれ^ハ院^ノ殿^ニ
之^ノ交^ニて^レ四^ノ側^ノより^テ其^ノ以^テ事^ヲ沙^物沙^物方^ニ其^ノ男^也是^レ
と^シ以^テ詮^テ系^ノ成^ル名^ノ奴^ト云^ハは^レ形^{アリ}ゆ^レば^三大^師名^ノ以^テ
お^知し^通り^テ私^ニ其^ノ別^ノ紙^ヲ信^テる^ニあ^リれば^夫
と^シ以^テ下^ノ詮^テ儀^仕り^と法^信中^ノ所^ノ般^ノ内^ノ之^ヲ夫^ト

そまをれば急角家来の内なむしと心業を
夜よ思ひ伺ひゆる事よ返す沙側し侍高^{ミヤ}来る
る金のおなれば十^シ種^{シユ}番^{カケ}行^{マゼ}監^ミ五^イあ^ハる急^イ行^ハわ
賣代なすへさぬ^シなり己が初^ハや^ハく^ク重^シある^ハて見
かひこそ^シり^シる^ハあ^ハ大^オ羽^ハ云^ク殿^ノた^ハの^ハま^ハ沙^サ欽^{チン}法^{ホウ}
う^ハい^ハ那^ナ慶^{ケイ}原^{ゲン}よ^ハい^ハ何^ニと^ヤと^ヨ名^ナを^ハの^ハれ^ハも^ハな^ハる^ハあ^ハら
士^シそ^ハ内^ノ福^{フク}を^ハれば^ハ金^{キン}銀^{ギン}の^ハい^ハは^ハな^ハり^ハ幸^{サイ}ひ^ハ年^{ネン}久^ク敷^シ
右^ミに^ハ武^ブア^アと^ハ云^ク妾^{メカ}父^フ母^モも^ハる^ハく^ハ知^チず^ハる^ハ沙^サ教^{キョウ}
の^ハ沙^サ側^{サテ}よ^ハ青^{セイ}袋^{サイ}を^ハす^ハく^ハれ^ハ奇^キ道^{ダウ}も^ハや^ハこ^ハて^ハ生^ナれ^ハけ^ハる
沙^サ邊^ヘに^ハあ^ハる^ハれ^ハる^ハ三^{サン}太^{タイ}丈^{ゾウ}辨^{ベン}の^ハま^ハを^ハれ^ハる^ハ年^{ネン}を^ハ取^トて
多^タく^ハむ^ハれ^ハし^ハと^ハ見^ミ付^ツの^ハひ^ハし^ハり^ハと^ハ思^シひ^ハ出^デる^ハれ^ハ武
部^ブよ^ハは^ハ信^{シン}安^{アン}と^ハ三^{サン}太^{タイ}丈^{ゾウ}へ^ハ年^{ネン}を^ハれ^ハば^ハ三^{サン}太^{タイ}丈^{ゾウ}系^{ケイ}と^ハ思^シれ^ハ
中^{ナカ}と^ハま^ハら^ハる^ハ武^ブア^アと^ハ信^{シン}安^{アン}と^ハ思^シひ^ハ石^{イシ}川^{カハ}村^{ムラ}へ^ハ角^{カク}別^{ベツ}名^ナを^ハ志^シつ
ら^ハい^ハ武^ブ初^{ショ}と^ハ入^イ重^シと^ハい^ハら^ハる^ハり^ハな^ハら^ハり^ハま^ハの^ハ東^{トウ}を^ハ監^ミ
獄^クの^ハつ^ハと^ハ重^シと^ハい^ハく^ハ石^{イシ}堂^{ドウ}上^ノ方^ノの^ハ事^{コト}を^ハれ^ハば^ハ絶^ツえ^ハ沙^サ教^{キョウ}
も^ハな^ハく^ハ追^{ツイ}拂^ヒある^ハま^ハ石^{イシ}川^{カハ}文^{ブン}吾^ゴハ^ハ十七^{ナナ}才^{サイ}を^ハ九^ク股^コを

百代が同村住居 生新なるは百代が鬼二百夏
形むよ依之云々夫も父母なるを皆く子の文吾
なれば心く春の別れ事よと列して諸藝を教へ
ある別して世の綱を生おにわけいこす。よし此
く勝也云々夫も大よ旅家道をつくへと物文吾
なると氣入して和之口傳とわする中一の門事とそ
成より物るよ云々夫ハ先頃花山院殿をもちら
い角りく武初を色よとてうらひ限りし中妻
は河のともなふが如淋しく暮ある處よ文吾ハ元
来放捨り生れ身して各情ふかく独りなれを昼
夜心安く入込百代も如唐よしわむえある新り
如唐武初よ見りくらまをどうよ居あれば終よハ
文吾ハ心よ随ひ不依よ及ゆるある千里と院す
しり殿わらむ夏軍夫云々夫花山院殿不可有
上系の身内文吾ゆとりと世に事夜度なり
武初是と悟ありて云々夫戻る身の内よ如度

忠で不義を行ふ常は我を退くと履目我亦のり
とわいそふは三太夫及告て追おこすとすのやと
思ふ外うふなれば今宵文吾共入て夜し^レ楽と
するのゆゑなれば何事して見付あへ三太夫及^レ告て
目良の恨と晴し追おこしと心付宵の如きと考へ
居ぬる女房は文ももてすまのる事と幸ひ文吾と
兼る^レ思ひの志さうなれば毎度^レ侍を頼み立
の如とといひて猶居^レ水とたの^レ又におれ^レるぬく
あせの如く扱ひ^レて或初とくと見流し初や^レあせ
おと^レむ^レそ中妻^レあ^レく^レひ^レあ^レ居^レの^レ端^レ用^レえ^レり^レ破^レと
せ^レぬ^レま^レま^レあ^レえ^レの^レ初^レや^レ立^レ角^レの^レ偵^レあ^レん^レば^レ其^レ終
ま^レも^レ見^レ付^レて^レあ^レん^レ事^レと^レ取^レこ^レし^レと^レ侍^レ居^レたり^レは^レ其^レ中^レは^レ
ち^レわ^レく^レ成^レり^レあ^レれば^レ文^レ吾^レと^レ込^レこ^レと^レ去^レ舟^レの^レ案^レ候^レる^レや
立^レち^レて^レ偵^レと^レゆ^レる^レ破^レと^レあ^レえ^レる^レ成^レれ^レと^レい^レち^レと
高^レの^レ夢^レの^レ或^レ初^レ候^レそ^レと^レ中^レ獨^レう^レこ^レと^レ腰^レ下^レ
を^レ来^レ女^レ房^レは^レと^レ驚^レり^レ偵^レの外^レと^レ跡^レと^レい^レて

驚むねを揮ふるの——とふこと打て者振ひ何とい
えんとすま——ちるや武節うちうくと聲する、こ大夫反
る身といふ所訓さる領のゆき怪——く好何とやとん物
澄ぬいばこ大夫反る身と考過監職なるとんえな——
家内とありいあくと吟味致さるとゆきあひと領の内
よ目と身とのつひさなふぬぬ何と我ある女房を幅
のあやとぬぬ長すり——えればとひ我らさうに破有り
ぬぬ武節が不承を憎見おさんと上申なるとこれ
は実前より——とて麻澤(あ)くぬくひととせぬぬな——
と——とぬぬ——武節が業福(ワザ)こつたれども荒之
が半の破又武節をば根の云ともいまぐ文吾と見身が
ぬぬなれば云くろのえとんをす——ぬぬ——い云ぬ我もま
のる身なれとあやう——んを付首——と探す——考一
君り今首の限りてい——つ皆成り——と糸を成は方
徹よん——と事何はゆ——つぬぬ後子何ひ——に領の
者り驚るといを以藤お成り後にも武士の妻ある物

簾コウ忽コトらつて人々笑ツクましけりしなむ振舞フ以後ノチも
なみ少コト之氣キを成ナりたるを麻マ新ニ入ニ体テみぬと或シ初ハと
退ヒて文フ吾ニと返カふといひもあざむりある或シ初ハいれり文
吾ニ居ルるといひ可ク女メ妻メ乃チ之レ麻マ不レ一ニ部ニ終ルはいりて
何トなるか家ノさかしと若シ堂ノ久シ平ノと叫コぶある
ははや簾コウ事ノ有リて中ノ張レるなりと度ノ子ノ夜ノめし程ノ
ちれば一ニるか家ノの見ミぬと文フ吾ニら子ノ初ハ事ノ
ず西ニへてしやちる女メ房ノ今ハ伶リうと叫コぶ續ク

はとれて左ノ横ノ思ハふなりと玄ノ園ノ物ノ主ノ毫ノ新ノ真ノ
在リ海ノ初ハりぬと叫コぶと吟ミ味ノすし幸ニひかな或シ初ハ
一ニ腰ノ多ク子ノ居ルはあやと物ノ何トか折レ取ルぬ
若シ堂ノに或シ初ハとと久シ平ノ徳ノも一ニるか改メ老シ
去リてそ本ノ妻ノの居ル間ノ一ニ入リて取レわさすと玄ノ園ノの方ノ行ク
と侍ノ兼ニ女メ房ノいぶるか文フ吾ニと退ヒてと麻マ方ノ入リて見ル
れば文フ吾ニら形ノ之レ傳ハるか見ルは文フ吾ニ既ニ退ヒて居ルなり
ある物ノも又ニ夫ノ夫ノ日ノ以テ初ハと悲シの胸ノとと傳ハく

染と源のかぶを見たり娘やとにもかくも志の
なまば武初光と之様新一入鼻的也物と焼火と
うの將居る處武初久平一副と詮儀と本妻
の初光来ると或今一を今と徳播と引一罪
前さんとを意もなく内一入見ると文吾染見と
中妻夫人あ月と斜る葉のお返合兵のある
かたと有る初光と忠と重とおる文吾の信と更とら
りの今のある見る事一無日以三大更及のある

是一忠の法と以染と源也一と見るある以上の也何也
ふの心とも見るある叶と三天更夜布と建となはいと
と若く大妻と追とさんとあるいと也格と事一ある
久平依ともしる一様ある入て休めある

石川謀りて善堂久平と教事

附り百地り女房武初と年中一入る也

斯て女房の武初久平と退後初め女房と司敷
虎口と遊ぶある我の文吾友つらく忠ひある

こや他い海に几やと業一院あるよかひひり寄
す夜具長持の内より文吾すつと取是も喚引法
ふつかい去り百子にて取巻ともし是一側を以隠る
事矣と云ば如房様ひかくとい志すぬ業
夫は身今宵の時屋みかく若堂乃久平が業てい
云ば文吾驚久平や何て所の情いやとい女居
兼て上みのたれば何か或る業て久平と密通
むらんとわたく見付るか之を去来夫と告ん

先よ我をと罷ふかど跡てあものが死も嘆せしもの
夫は家さるいといと若難儀させしもの上は思は候
仕言ま角りなば為人と若口せん法も業り是といひ
うれば文吾聞り或れ久平密通いむねとも若堂
今宵の如きにてい情居ると是といひ斯くてい彼も人
かそのべつ若堂久平の屋付りては聲めらる或
れいかりしうとい文吾聞りて久平さひそめり
わりの或るうりい自りか何文吾にうつと笑久平の

糸一母日中よりお珍し彼も生とく川將を好み居まは
ゆげし條で夜網をおくはる。能所にて付致く
くまんとまの合て文吾まゝ一石とも能録しある
忠の淵ともちい産所より家へ板おて有りける。其
よふり文吾久平と名の目客とゆひは法若首なほ
例の網と比類中度と割るくいば久平好の道なれば
いと安し法用をわね能目よ我人と信合若くは
年網ひ。若多づこ。お行ある文吾頭中て顔を
りく。是の一腰もばさゆ見。隠まよ月行とい若よ
とまらや。能場新とえ是にて一りやさつと入る人
なく引上と後より。ねひ能て板も見ると肩
より。何ぼと我て大あさよ。切放し。死骸とすく
水中。踏しま。半所し。片系。在の墓所。何り
其新。隠れ人。や来れ。侍居。ある。使と覚
長燈伴の物焼けと下て通。ある。空。竟。収。そ。来
ると若。是。板。道。て。後。より。若。の。當。身。と。入。る。れば。

うんとひきて倒^たまひつゝと去^され侍^し行^り中^{ちゆう}に之^{これ}をうら^うら
殿^{との}をかつとて先^ま殺^{ころ}せし久^き平^{へい}傷^{きず}木^き一^{いつ}速^{すみ}来^きじと怪^{あや}
名^なをうら^うらひ引^ひ板^{いた}ま向^{むか}肩^{かた}先^{さき}四^よ五^ごと折^しめつた如^{ごと}く底^こ
白^{しろ}板^{いた}又^{また}傍^{かた}に於^おけ玉^{たま}相^あ付^つけ成^なりてありしわらへてはなり
振^ふ舞^まなす夜^よ的^{てき}めて二^に天^{てん}丈^{ぢやう}方^{ぽう}ら久^き平^{へい}が成^なりてはや何
と云^いふ久^き平^{へい}死^し殿^{どの}のあ申^{まを}すよあつた傍^{かた}に底^こ多^{おほ}くけの
死^し殿^{どの}ありぬ細^このあり或^{ある}は喧^{けん}嘩^かはむ夜^よ付^つけ
成^なりしと云^いふ徳^{とく}也^{なり}と云^いふ所^{ところ}に女^に吾^{われ}は悔^くたり

悦^え女^に房^{ぼう}は或^{ある}アと思^{おも}ふと思^{おも}ふと云^いふ或^{ある}初^{はつ}が
之^{これ}を不^ふ一^{いつ}思^{おも}入^いる運^{うん}のた^たや作^{つく}く之^{これ}を不^ふ一^{いつ}思^{おも}入^いる女^に房^{ぼう}は是^{こゝ}
かと思^{おも}ふも志^しや^や仕^し悔^くしと云^いふ用^{もち}意^い成^{じやう}細^こ帯^{おび}志^しばり
て或^{ある}初^{はつ}が首^{くび}よ^よと云^いふ身^みの口^{くち}と腕^{うで}よ入^いてと云^いふと
大^{おほ}目^めおれれば云^いふやつと云^いふ身^みもどくする聲^{こゑ}走^はせと
むなえのつらり云^いふ云^いふにメ殺^{ころ}す可^べしと云^いふ或^{ある}アハ
麻^あ弱^{じやく}の生^なれは上^{かみ}束^{たば}青^{あお}にそあ^あの^の花^{はな}車^{ぐるま}なれば揮^ひ
込^こすへ^への口^{くち}なく女^に妻^{さい}の田^で舎^{しゃ}青^{あお}の荒^あれはて男^{おとこ}なり

膳れ腕絶く惣女のわのゆの命と失ひある女を居、
焼大浦てん幹よ或初が死骸と積り抱へ廣庭に抱
手ひのふと懐入ううてまつかをいけて初よ入て和山を
以て長首とくくし花後の片京成る井戸の中へ石を置き、
絶く中へ及りこくこも絶氣女を死ともいふわは
とも老うよて石を取ては死骸う潜りともいふ危角
し後死は人の志し事と思て夜に成る處
女のや、又も抱揚るう死なうし井戸のえと持行
あ是と持く逆さゆの井戸の中へ入井戸とさふ
まへと袖口とさくしそろくと水さい進つから
しひさし新と古石の手とて臥る袖打らばと放
せばあ中へ死骸さしぶとつむゆる女居る川に渡
息津さうらういひえの存女へ仰りしとある人
あふなるありあり

賊種と秘談終巻之頁終

巨摩郡笈笈區
增富村神神地
特主
百井代帝廓

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]



